

私の病院、 紹介します!



写真1 摂食嚥下センタースタッフ

一般的な咽喉頭の観察の後に、着色水や実際の食物を用いて嚥下機能評価をしています。VEは、フットワークの軽い検査なので、主治医からの依頼だけではなく、病棟の看護師や嚥下センタースタッフからの要望でも行っています。

当院は、ベッド数304床の地域急性期総合病院で2015年10月より摂食嚥下センターが設立され、耳鼻咽喉科医、2名の言語聴覚士、1名の歯科衛生士・摂食嚥下認定看護師・管理栄養士で構成されています。さらに、作業療法士や理学療法士のリハビリテーションスタッフも治療に参加してもらい、院内外の嚥下障害患者さんへ積極的に

にチーム医療に展開しています。嚥下障害例の診断は週10〜15件の嚥下内視鏡検査(以下VE)と週4〜8件の嚥下造影検査(以下VF)を中心に、VEは原則外来で行っていて、VFは原則外来で、ハイビジョン対応の高解像度電子スコープを用い、往診症例には、コードレス喉頭内視鏡とブック型PCを接続して内視鏡画面を検者のみならず、コメディカルスタッフや家族にもリアルタイムで観察しながら検査しています。

嚥下障害例の診断は、嚥下内視鏡検査と嚥下造影検査を中心に行っています。VEは、外来で、ハイビジョン対応の高解像度電子スコープを用い、往診症例には、コードレス喉頭内視鏡とブック型PCを接続して内視鏡画面を検者、コメディカルスタッフ、家族にリアルタイムで、観察しながら検査しています。

摂食嚥下センターの活動

聖隷佐倉市民病院 耳鼻咽喉科 摂食嚥下センター

津田豪太

そして、VEでは評価できない部分をVFで精査していきます。VF専用のイスを用いて実際の訓練につながる安定した姿勢を作り、造影剤も液体状で、トロミの違う三種類と硬さの違うゼラチンで半固形化した二種類を用意して詳細な検討を行っています。

当摂食嚥下センターでは下記①〜⑤の特色ある入院治療もしています。

①1回だけの検査では、判断つきかねる症例には、1〜2週間の入院の上で、全身検査と複数回のVEやVFを行って治療計画を考えます。いわゆる嚥下障害の検査入院です。

②低栄養状態(サルコペニア)が目立つ嚥下障害例では、末梢持続点滴もしくは、経鼻胃管留置による積極的栄養療法を中心として約1ヶ月間の入院対応を行っています。十分な栄養治療と体力に合わせたりハビリテーションを行うことで、多くの症例で、再び経口摂取可能となつていきます。

③他院で、嚥下リハビリテーションが行われたにもかかわらず十分な効果が得られていない症例には、約2ヶ月間という治療期間限定で、集中的嚥下リハビリテーションを行う入院治療も対応しています。

ます。嚥下リハビリテーションに特化した、回復期入院の様なもので、経口摂取に本人の意欲と理解があれば、比較的確実に改善します。

④リハビリテーションで全く改善しない重度障害例であっても、全身麻酔で約2時間の嚥下機能改善術と術後リハビリテーションを行うことで70%以上が経口摂取で自立します。

⑤原疾患が、進行性であったり、誤嚥性肺炎を反復する症例には、永久気管孔形成を伴う誤嚥防止手術をすること、生命予後の延長が得られます。

最後に、嚥下障害治療は、単一医療機関で、完結することはあまりない病態ですから、地域の様々な医療機関と連携して、有効な治療継続を図っていくことが重要な医療分野です。

当院のある北総地区を対象とした、

北総摂食嚥下勉強会を年2回、県内全体を対象として千葉県摂食嚥下ネットワークの研修会を年1回行っており、当院スタッフも積極的に参加しています。



写真3 嚥下造影検査用のイス



写真2 往診用の嚥下内視鏡

OLYMPUS
Your Vision, Our Future

EndoTherapy.

Introducer変法を
より身近な手技へ



販売名：イディアルシースPEGキット 医療機器番号：22600BZX00409000

Introducer変法胃瘻造設キット

イディアルシースPEGキット

1回の内視鏡挿入、経鼻ルートでも造設可能なIntroducer変法による患者様への更なる優しさ、シースを用いたボタン挿入での気腹や胃裂傷リスク軽減による安全性の向上に加え、IDEALシースPEGキットは簡便性の向上を目指した新しいIntroducer変法として誕生しました。

製造販売元／秋田住友ベーク株式会社 販売元／オリンパス株式会社

IDEAL

www.olympus.co.jp